

「第7回製剤機械技術研究会仲井賞」 受賞者の選考結果について

The 2006 Nakai Award of The Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員長 岡田 弘 晃

Hiroaki OKADA

The Chair of The Selection Committee of The Nakai Award

本研究会では創立10周年を機に、平成13年より標記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。新しい選考委員会細則（改訂2006年6月12日）に基づき、本年度は、4年委員3名、2年委員3名（任期は1期2年とし、再任を妨げないが2期まで）が会長によって任命され、松田芳久先生にかわり、岡田（東薬大）が委員長を拝命し、委員長代行に宮嶋勝春先生（奥羽大）が選任されました。

本年度は、応募件数が1件のみで、その適否について本委員会（平成18年12月12日）で提出された推薦書および業績資料に基づいて、慎重かつ厳正に審査した。その結果、新規性、実用性、製剤工程における貢献度などの観点から、下記の候補者を受賞者として会長に報告し受賞者が決定しました。

記

・受賞者：武井成通氏（フロイント産業株式会社）（代表）

岩崎 章氏（フロイント産業株式会社）

・受賞テーマ：遠心転動造粒コーティング装置「グラニュレックス」の開発

・受賞理由：1) 本機は水平面より30度傾斜したローターを開発したことによって、ダイナミックな強い転動運動が得られ、粉掛けあるいは懸濁液噴霧による造粒と、粒子へのフィルムコーティングを効率よく安定して行うことができ、相似形でのスケールアップが容易になった。

2) ムーブブロー（昇降式給気デバイス）の開発によって、任意のタイミングで乾燥用空気の供給ができ、粉掛け造粒だけでなく乾燥やフィルムコーティングが可能になった。

3) これまで遠心転動造粒装置は乾燥能力が低く、別の装置での乾燥が必要であったが、本機ではコーティングから乾燥まで同一装置内で行うことができるようになった。乾燥機能が付与され、転動作用も強化されたので生産性が大幅に改善された。

4) 本機は密閉構造なので、粉末飛散による薬物の暴露から作業員や周辺環境を守ることができる（コンテインメント対応）。

5) これまでに、国内特許1件（5件出願中）、外国特許2件を取得している。また、専門誌への投稿や講演等で本業績は広く知られており、現在、国内30社、海外数社に納品され、実際の製剤開発・製造現場での有用性が確認されている。

以上のように、本機の開発は、技術的な特徴、実用性、他社技術との差別化、特許取得などの点において、「仲井賞」受賞に値する業績である。